

目標達成計画

事業所名 グループホーム里山

作成日：平成 22年12月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】						
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間	目標達成状況(任意)
1	6	身体拘束の真の意味を理解しておらず、日々のケアの中での意識に欠けた言葉がけや、態度が見られる。	身体拘束とは何か、全職員が理解し、利用者が嫌な思いをする事無く、過ごせるようになる。	勉強会の場を設け、身体拘束について全職員を対象に実施し、知識や理解を深めていくと共に、利用者の自由と安全 利用者に対する言葉がけについても学んでいきます。	12 か月	身体拘束の勉強会は2～4月に予定
2	33	里山での「看取り」のあり方が明確でない。	里山での「看取り」のあり方を明確にし、御家族や医療機関とも連携していく。	看取りの指針は作成したが、管理者、ケアマネージャーが外部の勉強会に参加すると共に、ホームの勉強会でも看取りについて、全職員に実施する。 また、御家族へも看取りの指針を配布する。 そして、看取り時は医療機関との連携を密にしていく。	12 か月	看取りの勉強会は6～8月に予定
3					か月	
4					か月	
5					か月	

サービス評価の実施と活用状況表

事業所のサービス評価の実施と活用状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】				
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)		
1	サービス評価の事前準備		運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った	
			利用者へサービス評価について説明した	
		○	利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした	
			運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した	
			その他()	
2	自己評価の実施	○	自己評価を職員全員が実施した	
			前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った	
		○	自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った	
			評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った	
			その他()	
3	外部評価(訪問調査当日)	○	普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった	
		○	評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と率直に意見交換ができた	
			対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た	
			その他()	
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	○	運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った	
			利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った	
			評価機関へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った	
		○	運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った	
			その他()	
5	サービス評価の活用	○	職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した	
			「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)	
			「目標達成計画」を評価機関へ説明し、提出した(する)	
			「目標達成計画」に則り、目標達成に向けて取り組んだ(取り組む)	
			その他()	